

芸能と名の付く神社なので、奉納された多くの絵馬にはオーディションの合格祈願や合格お礼の文字が並んでいた。

明治通りに戻り職安通りから区役所通りに入ると左手にあるのが恵比寿神を祀る稲荷鬼王神社。元々、稲荷社だったが天保年間に熊野から鬼王権現を勧請して合祀したことでこの名がある。『鬼王』に因み、節分の際には「福は内、鬼は内」と唱えるという。まずは拝殿でお詣りをして参道左手にある恵比寿神を祀る三島神社に詣でる。鳥居の笠木中央に木造りの恵比寿宝船が掲げられている。また、本殿北側には富士塚（西大久保富士）がある。昭和の初めに築造されたが、社務所建設の際に1～4合目と5合目～頂上が二つに分れてしまったらしい珍しい富士塚で、その間にある狭い参道をお胎内に通じる道と呼んでいる。

職安通りに戻ると東へ抜弁天通りの緩やかな坂を上っていく。上りきった左にあるのが永福寺で、本堂に向かい合うように福祿寿を祀る祠がある。本堂手前には珍しい露座の大日如来像と地藏菩薩像が安置されている。永福寺の前の横断歩道を渡ってY字路の真ん中にあるのが弁財天を祀る巖嶋神社である。八幡太郎義家が奥州平定へ向かう途中、ここから見える富士山を望み、その先にある安芸の巖嶋神社に戦勝を祈願。その戦勝のお礼に帰途、巖嶋神社を勧請して創建したと伝えられている。境内が南北に通り返けでき、また苦難を切り抜ける弁天社ということで、抜弁天として知られている。狭い境内にある白木の鳥居の前で、簡素で小さなお社に手を合わせる。



（後列左から）夏原寿一、大島洋子、荒井正人、富澤克禮、小原茂延、小林敏博
（前列左から）石塚嘉一、平野紀子、島田稔、田井具世、田村佐喜子、鳥橋祥子

抜弁天からはまた道草をする。先ほど西大久保富士を見たので近くにある東大久保富士に寄った。Y字路を西へ向かう文化センター通りを下った交差点を左へ曲がると西向天神社がある。一段高い

境内の南西角に東大久保富士が築かれている。ちょうど斜面に築かれた富士塚で、下の駐車場から眺めると10mを超えるような高さだ。雑草に覆われた斜面には富士講の講碑や合目石などを見ることができる。天神社の石段を上がり、境内へ入り斜面の反対側から見る富士塚は山頂の石碑までの高さは2mくらい。塚は柵に囲われて登拝はできなかった。天神社の東側の鳥居を出て住宅が建ち並ぶ細道をL字形に進むと抜弁天に出るが、その途中にあるのが寿老人を祀る法善寺。本堂右手にある寺務所の左側の引き戸が少し開いていて、その前に『寿老人』と記された掲示がある。中を覗くと部屋の奥の高い祭壇に小さな黒っぽい像が安置されている。その寿老人像にお参りをする。本堂には身延山久遠寺の鎮守、七面山に住むという女神七面明神が安置されているという。

抜弁天からはさらに東へ向かう。歩き始める前に「歩けるかしら」と危惧されていた大島さんは先頭を軽やかに歩かれている。並んで歩いていて振り返ると、後のグループとは20m以上も離れてしまった。大久保通りとの交差点手前で後のグループが来るのを待ってから大久保通りを東へ進む。歩道が狭くなったので長い列になって進んだ。6番目に訪れる七福神は牛込柳町交差点手前にある経王寺の大黒天。大久保通りを下り始めると、『開運火防 大黒天』と書かれた何本もの赤い幟が目に入った。経王寺の急な石段を上がるとすぐ前が本堂で、その右手に大黒天は祀られているが、年6回の甲子日（きのえねのひ）のみ開帳されるとのこと。住職は北里大学獣医畜産学部卒業後、アメリカの牧場で酪農に従事し、帰国後、出家し僧侶となった異色の経歴をもっている。

牛込柳町の交差点を渡って大久保通りをさらに20分ほど歩くと早稲田通りとの交差点に着き、神楽坂の商店街が早稲田通りに沿って広がっている。この神楽坂上の交差点を右に折れると、すぐに朱色の山門が見え、毘沙門天を祀る善国寺に着く。神楽坂に遊びに来た日帰り観光の参拝客に混じって本堂への石段を上がって参拝する。石段の脇、左右には狛犬ならぬ“狛虎”が配されている。財宝の神、毘沙門天は寅の年、寅の月、寅の日、寅の刻に誕生したことから犬ではなく虎を配したといわれている。その狛虎を背に集合写真を撮って予定どおり新宿山ノ手七福神めぐりを終えた。



毘沙門天を出て、神楽坂らしい石畳の路地を少し巡ってから表通りに出て神楽坂らしくない居酒屋でお疲れさん会を実施した。

《行程》東京メトロ新宿御苑前駅 9:55→10:00 太宗寺（布袋尊） 10:25→10:35 花園神社（新宿富士） 10:45→10:50 稲荷鬼王神社（恵比寿神、西大久保富士） 11:05→11:20 永福寺→巖嶋神社（弁財天） 11:35→11:40 西向天神社（東大久保富士） 11:55→12:00 法善寺 12:10→12:30 経王寺（大黒天） 12:40→13:10 善国寺（毘沙門天） 13:25

「新宿山ノ手七福神巡り」を歩く

小原 茂延

ここ数年、コロナ禍や自身の大病もあって家に籠りがちであった。これでは自然と触れ合える機会もなくなると、ウォーキングを少しづつ始めていたところ、新年山行「新宿山ノ手七福神めぐり」の案内があった。寺社巡りも趣味の一つであり、新宿から神楽坂へのルートは土地勘も多少あるので参加することにした。緑爽会に入会して初めて参加した山行が9年前の「柴又七福神めぐり」であったことも何か巡り合わせを感じた。

当日は少し寒風が吹く天気であったが、新宿御苑前駅の改札を出ると、島田さんが既に居られ、参加の方々も程なく集合した。小林リーダーの概要説明を受けて布袋尊を祀る太宗寺に向かう。閻魔堂もあって、その中にある奪衣婆の形相に恐れをなすと覗いた仲間と言う。キリシタン灯籠もあった。次に稲荷鬼王神社の恵比寿神を目指すが、途中、花園神社にも立ち寄って由来などを聴く。小林さんの寺社とその関連に対する説明は、皆さんも言っていたように詳細且つエピソードをまじえて感心する。本人は「趣味も手伝っ



熱心に解説する小林副代表

て」と仰るが専門家顔負けである。鬼王神社には恵比寿神が祀られ、境内には富士塚もあり、山好きには一山の気持ちが生じるようだ。東に向きを変えて大久保山永福寺の福祿寿、小祠の中に短身・長頭の愛らしいお姿を拝す。道を隔てた南は抜弁天で知られる巖嶋神社で辨財天は水の神様で五穀豊穰の守り神という。すぐ南西の西向天神社の富士塚にも立ち寄った後、地下鉄大江戸線の牛込柳町駅南にある経王寺の大黒天を拝観、慶長三年(1598)現在地に安置されたという歴史を経たお姿である。この牛込一帯は奈良時代から牧場があったと伝えられ、16世紀に赤城山麓の大胡氏が「牛込城」を築き、牧場経営も手掛け、名も牛込氏に改名したと歴史散歩書にあった。牛込警察署辺りを歩いていると、小林リーダーが突然、右手の家が自宅だと紹介のハプニングまであって一同吃驚した上、警察のセキュリティにまつわるエピソードにも沸いた。最後にお参りした鎮護山善国寺には毘沙門天が祀られ、神楽坂一带はその門前町として今も賑わっている。毘沙門天は、その生まれの謂れから寅毘沙と呼ばれるそうで、石虎が本堂手前左右に鎮座している。江戸後期の作で、その下部には明治初期に内務省の測量時に使用された水準点マークである不の字に似た几号水準点が刻まれている。善国寺を後にして向かいの路地に入る。料亭などが建ち並ぶところでは小林さんのエピソードが冴えて、神楽坂にまつわる政界スキャンダルや新聞記事の裏話が飛び出し、一同盛り上がり新春の初笑いとなった。

(七福神めぐりの写真撮影：石塚嘉一)

11月講演会について（お詫びと報告）

昨年11月に、小泉弘会員による講演会「長く山岳書の装丁を手掛けて一本の思い出とエピソード」を開催し、前号でその報告を掲載しました。そこで触れているように、個々の本に関してのお話しは、紙面の都合で一部だけの紹介になっておりました。また、小泉会員より、報告について間違いの指摘や修正依頼がありましたので、今号ではそれらを反映させ、別冊という形として、前号の再録と個々の本についてのお話しをまとめました。個々の本については極力表紙やジャケットの画像を入れておりますが、空押し等、上手く表現できないものがある点をご容赦願いたく思います。ただ、小泉さんがおっしゃるように、本は手に取った感触も大きな要素だと思いますが、それを少しでも感じていただけたらと思います。

前号に下記のとおり、誤りがありました。お詫びし、訂正いたします。

2 ページ 最下行 「本門組」→「本文組」（ほんもんぐみ）

4 ページ 7行目 大森久雄さんの著書『山の本 本の旅』→『山の旅 本の旅』

初の女性会員のこと

南川 金一

山岳会の会員名簿に載る最初の女性会員は植村國子（明治 39 年 2 月入会）である。住所は新潟県古志郡長岡町稽古町（長岡町は明治 39 年から長岡市になった）。

それ以上の情報はなかった。新潟県からの入会者はほとんどが高頭仁兵衛の紹介であるから、高頭との関係から追っても、何も分からなかった。その次にある名前は野口幽香子（明治 39 年 3 月入会）。『山岳』第一年第三号に「初登山 岩鷲登山記」があって、植物への興味からの入会であったことが窺える。そして、彼女は保育園を開設して幼児教育に尽力したことから、その方面で著名であり資料も多い。

『日本女性登山史』（坂倉登喜子・梅野淑子、1992 年大月書店）では、「会員名簿の住所を頼りに（植村國子の）調査をおこなったが、ついに確認できなかった。…長岡市の登山界など多くの人々の協力によっても確認できなかったのは残念である。そこでここでは確認できた女性会員第一号は野口幽香子としておく」としている。私もその後、高頭仁兵衛について調べるべく長岡市立図書館へ行った折、当然、植村國子について調べることも頭にあったが、何の情報も得られなかった。

百年史編纂作業が大詰めになった 2006 年秋のこと、百年史の松田委員長宛てに越後支部の室賀輝男氏から「植村國子について判明した」との手紙があり、そのことは越後支部調査結果として『日本山岳会百年史』にも採り入れた。同時に、これは全国レベルのテーマであるから、会報か『山岳』に書いて欲しいと、松田さんから室賀氏に依頼したはずだが、百年史の作業完了後の私は自分の山登りに没頭するようになったので、そのことは失念してしまっていた。数年を経て、山岳会図書室にある『越後山岳』第 11 号（2007 年）に、室賀輝男氏の「日本山岳会創期の新潟県会員」が掲載されていることに気付いた。明治 40 年名簿に載る新潟県関係会員 110 人を調査したもので、地元での人脈をも駆使して調査した労作である。植村國子については、植村姓の三代目の家族が長岡市に在住していることをつきとめて取材し、音楽教師としての活躍が浮かび上がった。

室賀氏の調査によれば、植村國子は 1867（慶応 3）年東京生まれ、明治 33 年創設の長岡女子師範学校の音楽教師として赴任した。後に長岡中学校の音楽教師も兼任、同校の第一校歌を作曲している。また、長岡高等女学校や斎藤女学校（現・中越高校）の音楽指導にあたり大正 6 年師範学校を退職。私が調べたことを付け加えれば、明治 31 年高等師範付属音楽学校（明治 32 年東京音楽学校に昇格）の選科に入学している。選科の要件は①唱歌、バイオリン、洋琴（ピアノ）、風琴（オルガン）、箏の一科目あるいは二、三科目を選択、②男女を問わず、年齢にかかわらず所選の科目を学修するに堪え得る者、③入学は随時許し、授業時間は本人の便宜を斟酌して定める、④選科生にして所選の科目を修了し卒業試験に及第した者には卒業証書を授与、などであった。長岡女子師範開校は明治 33 年 4 月、彼女は同年 11 月に赴任している。以下は私の推測である。高等師範付属音楽学校の選科入学時 32 歳、以降姓が変わっていないのはすでに子持ちで、生活のために音楽を特技として活かすために、講義を受け易い選科に入って卒業証書を得ておきたいと考えた。選科 3 年目の途中で長岡女子師範の話があったので、卒業を待たずに赴任。長岡女子師範での処遇は訓導嘱託だったが、“東京の音楽学校を出た先生”は一目を置かれる存在だった。戸籍名は植村くに、山岳会名簿では植村國子、長岡中学校校歌の作曲者名は植村クニ。野口ゆか（戸籍名）も、幽香、幽香子を使った。明治の女性にはこうした使い分けが多い。

植村國子と野口幽香子の山岳会入会は、会発足間もなくの 1 か月違い。郵便を処理する数日の違いが 1 か月違いになる時代のこと。どちらが先とこだわることでもない、と私は考えている。

E・ヒラリー卿、R・メスナーのサイン本を巡って

吉田 理一

所蔵している R・メスナー著、横川文雄訳『生きた還った～8000m峰 14 座完登』（1987 年 8 月 東京新聞出版局刊）には E・ヒラリー卿と R・メスナーのサインが入っている。

これは生前「新潟の人は広い家にお住まいでしょうから山の本は何れ新潟に送ります」と話されていた緑爽会会員、早川瑠璃子さん（4719 番・永年会員）のご遺族から寄贈された数百冊の山岳書の中の一冊である。このサインは一体何時何処でいただいたものなのか、ずっと疑問に思っていたが不明のまま、早川さんは 2013（平成 25）年 9 月急逝された。

本を頂いて 10 年が経過し、ようやくサインをしていただいたと思われる時の資料に巡り合った。

それは、会報「山」560 号に掲載されている、1991 年 11 月に開催された「山岳環境保護国際シンポジウム東京会議 1991」である。33 年前の開催である。当時、海外委員として催しに関わっていた早川さんが、会議中にサインをいていただくチャンスを得たと私は確信している。

この会議をご存知の方は少ないと思われるので概要を紹介しておきたい。

山岳環境保護国際シンポジウム東京会議 1991

主 催：HAT-J（代表 田部井淳子） 日 時：1991（平成 3）年 11 月 9 日～10 日

会 場：昭和女子大学+ 宿 泊：東京パレスホテル

参加者：E・ヒラリー卿、R・メスナー、モーリス・エルゾグ、クリス・ボニントン他

日本人チェアマン・パネリスト：湯浅道男、坂下直枝、小野有五、川喜田二郎、岡嶋成行、他

開会挨拶：大石武一（初代環境庁長官） 他

歓迎レプション挨拶：山田二郎（第 16 代日本山岳会会長）

橋本龍太郎（日本山岳会会員 8665 番 夫婦会員）、他

これに引き続き下記の会議が行われた。

HAT-J 富山会議

日 時：1991（平成 3）年 11 月 11 日～13 日

宿 泊：富山第一ホテル A コース～ホテル立山 B コース～宇奈月国際ホテル

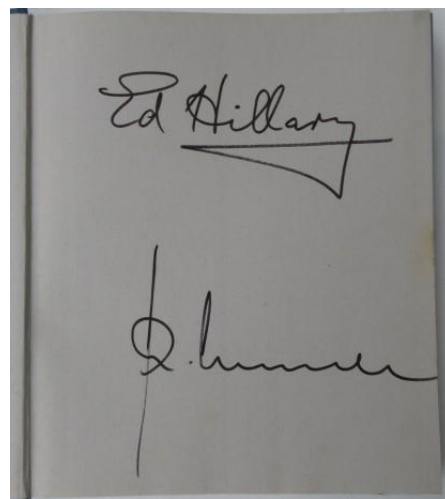
富山会議実行委員長：藤平正夫（第 17 代日本山岳会会長）

訪問箇所：芦畷小学校、立山博物館、文部省登山研修所、立山登山、黒四ダム、大町山岳博物館

現役の頃、ある大会引率で会場の昭和女子大学に行った折、学生食堂に田部井淳子さんのエベレスト登頂の写真が飾ってあって不思議に思っていたが、田部井さんは昭和女子大学のご出身であることが分かり納得した。

私は海外の山には全く縁が無いが、平成 3 年にこのような世界を代表する岳人が日本に集う一大イベントがあったことを知り驚きである。これほどの国際会議を催行するには相当な予算が必要であったと思われるが、その頃はバブルのピークを過ぎていたとはいうものの、準備段階では企業からの協賛金も得られやすかったのではと推察される。

「引き継がれる山岳祭」PT もあり、国際的な催しとして、以下のことも紹介したい。



越後支部の伝統行事「高頭祭」を越後から世界へ

日本山岳会創立発起人の一人である越後の豪農「高頭仁兵衛」の遺徳を偲んで毎年7月弥彦山頂の高頭翁碑前で執り行われる「高頭祭」は今年で67回目を迎える。

アジア山岳連盟(UAAA)は14カ国・地域・団体に構成されている。今年は「アジア山岳連盟創立30周年記念事業・国際平和祭2024」が日本において開催されることになっている。そのメイン行事として「高頭祭」への参加が計画されている。海外の山岳関係者と交流できる良い機会であるので私も是非参加したいと思っている。

(编者注：この関連記事として、会報「山」826号、緑爽会会報162号も、是非お読みください)

～～《予告など》～～

3月山行 「武山と三浦富士を歩き、河津桜を観賞」 担当：荒井

ちょっと遠方ですが、三浦半島へ出かけます。かなり昔に、会で三浦富士へ行った記録がありますが、今回は武山からミニ縦走し（桜祭りの会期が終わってしまい申し訳ないですが）三浦海岸の河津桜を観賞します。

日時：3月7日（木） 10時。京急「横須賀中央駅」改札を出たデッキ
「横須賀中央駅」までは品川から京急で約1時間です。

行程：バスにて「竹川」下車～武山不動尊（標高200m）～砲台山～三浦富士（標高183m）～京急長沢駅＝（電車）＝三浦海岸駅～小松ヶ池まで河津桜を観賞

歩程：約3時間30分

申込：3月3日までに荒井へ



5月総会：ここ数年は4月開催としていましたが、今年については後記の催しとの関係で、5月に開催したく、ご理解のほどお願いいたします。なお、総会資料は4月中旬にはお送り致します。

日時：5月9日（木） 場所：ルーム104号室

13時30分～14時30分 総会

14時45分～15時30分 芳賀淳子さん（芳賀孝郎会員の奥様）による紙芝居
「アルバータ山のピッケル ものがたり」上演

※2025年は楨有恒隊長の下、日本隊がアルバータ山に初登頂してから100年となります。

会員異動

退会：鎌倉淑子会員（14387） 鎌倉会員は12月末でJACを退会されました。

―― 編集後記 ―――

吉田理一さんのお宅の書庫を拝見したことがあります。こんな貴重なサイン本も所蔵されているんですね。会報『山』今月号の寄付の欄をご覧になりましたか？「図書室の運営のために」とあります。図書委員の私は感動しつつ、襟を正してきちんとお応えしないといけないと身の引き締まる思いでいます。（荒井正人）

あまり経験のない2月の長雨で楽しみにしていた宝登山の山行が中止になりました。昨年からの異常気象が今年も続くような予感がして多少気が重いです。3月山行は武山と三浦富士を歩いてから河津桜を楽しみます。好天を願っています。皆様のご参加よろしくお祈りします。（小林敏博）

支部の低山の会の下見で、先週末、秦野駅から渋沢丘陵を歩いてきました。梅や菜の花の向こうに、雪で白くなった丹沢の山々が見えました。緑爽会でも行ったことを荒井さんに教えてもらって8年前の会報を見たら、当時の活発な会の様子が伺えて、私たちもがんばらなければと思っています。（石塚嘉一）

<次号予告>4月25日発行の主な内容

3月山行報告。南川さんの連載⑨ など。皆様からの投稿をお待ちしています。